京都日本画新展

2023

ごあいさつ

「京都懇談会」の提言を受け、若手日本画家の活動を奨励することを目的として2008年度に創設した「京都 日本画新展」。2013年度からの「続（しょく）『京都 日本画新展』」と合わせて、15年にわたり作品の発表の場を提供してまいりました。現在、同展出品を経て、多くの作家が各方面で活躍しています。引き続き、日本画を志す若手作家とともに、京都ならではの日本画展を目指し、「京都 日本画新展」を開催いたします。

京都における日本画は「京都画壇」として数多くの日本画家を輩出し、また日本画の世界で育った人材は京都の美術・工芸・伝統産業を支えてきました。私たちは創造性あふれた若い人材の活動を奨励し、京都文化の発展に寄与することを目指しています。

本展では、大賞・優秀賞受賞作をはじめ、推薦委員から推薦を受けた20～40歳代の計30作家の秀作と、推薦委員の日本画家の新作を合わせて展覧いたします。

今後も「京都 日本画新展」が将来有望な若い作家たちにとって研鑽の場となり、また多様な展開を見せる現代日本画の新しい試みの一つとして、京都の日本画壇の一助となることを願っています。

2023年２月

主催者

Greeting

Based on the proposal of the Kyoto Advisory Panel, “The New Kyoto *Nihonga* Exhibition” was established in 2008 with the goal of encouraging the activities of younger generation of Japanese artists. Together with the sequel of “The New Kyoto *Nihonga* Exhibition” from 2013, we have provided an exhibition to showcase artwork for 15 years. Currently, many artists are actively involved in various fields after participating in our exhibitions. We’d like to continue our exhibition together with the aspiring new generation of artists that is unique to Kyoto.

The Japanese arts through “Kyoto Art World” have groomed many artists that have supported the arts and crafts, as well as the traditional artistry of Kyoto. Our goal is to contribute to the development of Kyoto culture by encouraging the next generation of creative youthful artists.

In our exhibition, together with the Grand Prize and Excellence Award Winning Arts, we will exhibit the excellent artwork from a total of 30 artists in the age ranges of 20s to 40s, as well as the new Japanese artwork recommended by the panel.

We hope that our exhibition will continue to be the educational venue for potential young artists and that it will be the beacon of displaying the new attempts and the various development of contemporary Japanese artistry.

February 2023

The Organizer

「京都 日本画新展」について

「京都 日本画新展」は、日本画を志す若手作家たちが、生き生きと画を描くことを応援し、そして、その活躍の場を提供する目的で、2008年度に創設されました。

2013年度からは、「続（しょく）『京都 日本画新展』」、そして、2018年度からは京都府、京都市、京都商工会議所が共催に加わり、「京都全体で取り組む」日本画の展覧会として継承しています。

本展への出品は推薦方式です。京都、滋賀、奈良、大阪の大学で日本画の指導にあたっている先生方に推薦委員を委嘱し、より幅広い視点で、より多様な若手作家を毎年、推薦いただいています。また、受賞作品の選考にあたっては、選考委員として、作家、評論家、学芸員などの方々にお願いし、多角的な視野から行っております。

出品の条件は、京都を中心に活動する、あるいは京都に縁のある、概ね20～40歳代の若手作家です。推薦委員により候補者を選定し、出品依頼を行います。

今年度は、30人の出品者に新作を制作していただきました。2022年11月28日に選考会を実施し、大賞１点、優秀賞１点、奨励賞（京都府知事賞、京都市長賞、京都商工会議所会頭賞）３点を選出しました。

本展では、受賞作品を含む30作品を展示。あわせて推薦委員６人の作品も展示します。引き続き、日本画を志す若手作家とともに、「京都 日本画新展」を展開していきます。

京都 日本画新展2023

会期：2023年２月３日（金）～２月12日（日）
会場：美術館「えき」KYOTO

主催：西日本旅客鉄道株式会社、京都新聞
共催：京都府、京都市、京都商工会議所
協力：文化庁 地域文化創生本部
後援：京都府教育委員会、京都市教育委員会、KBS京都、エフエム京都

［推薦委員］
石 股　昭（奈良芸術短期大学教授）
雲丹亀利彦（京都精華大学教授）
大 沼 憲 昭（嵯峨美術大学教授）
川 嶋　涉（京都市立芸術大学教授）
西久松吉雄（成安造形大学名誉教授）
村 居 正 之（大阪芸術大学教授）

［選考委員］
太田垣　實（美術評論家）
國賀由美子（大谷大学文学部教授）
野地耕一郎（泉屋博古館東京館長）
畑　智 子（京都文化博物館特任学芸員）
森 口 邦 彦（友禅作家、重要無形文化財保持者）
山 田　論（美術史家）

※いずれも五十音順、敬称略

目次

ごあいさつ …… 2
「京都 日本画新展」について …… 4
「京都」の「日本画」の「新」しさ …… 野地耕一郎 …… 6

図版 …… 9
推薦委員 図版 …… 71

出品リスト …… 85

選考によせて …… 87
太田垣 實 …… 88
國賀由美子 …… 89
畑　智子 …… 90
森口邦彦 …… 91
山田　論 …… 92

「京都」の「日本画」の「新」しさ

野地耕一郎

「京都 日本画新展」が創設されて15年、今回で15回目となります。京都ならではの日本画の新たな表現とは何か、それを探究する新進作家たちのコンクールとして斯界（しかい）の注目を集めてきたと思います。「日本画」という元を正せば古い歴史と固有素材による創作手法をもつ絵画にこだわりつつ、「今」の表現をつかまえようとしている有為の画家たちの競合は、実にスリリングです。

「今」とは、現代というより、もっとホットな「現在」という時空のことでしょう。この「現在」は、常に流れていきますから時間の区切りをもちません。時間の区切りをもたない現在という、移ろい続けるものの表現を、推薦された画家たちが研ぎ出す、とてもクールな展覧会が「京都 日本画新展」だと思います。

いうまでもなく、日本画も絵である以上、絵画という世界を創らなければならなりません。「世」とは、その時その時の時間の謂いであり、「界」とは区切られた空間という意味ですね。だから世界を考える時は、一定の過去をもち、未来へと移ろっていくものとしての「現在」を捉えなければならないわけです。しかし、時間の区切りをもたない「現在」という今は、つかまえたと思ったその瞬間から手の指のあいだをすり抜けていってしまいますから、これを描きとっていくことはかなり難しいことです。ただ、およそものの存在から時間を追い出すことはできませんから、観念ではないものにはすべて過去と未来の時間が含まれている。だとすれば、時間をたたえたものの「現在」の相貌を描くのが日本画という絵画なのかもしれません。

さて、自然の写生に寄り添いつつも、今生きていることの実感や晦渋（かいじゅう）といった自己の内面にまなざした応募作30点の中から、とびきりの「現在」を探し出すのが審査の面目です。結果、今回の大賞を射止めたのは小谷光《meets》という作品でした。選考委員６人で４回行った投票では初回から高得票でしたから、大賞として異論のない作品でしょう。

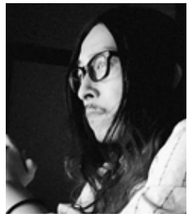
色彩は控えめで押し付けがましくなく、一見未完成のように見えながら交錯する線描が織り成す奥行きのあるこの絵のたたずまいに一同瞠目（どうもく）したのは確かです。タイトルからその真意を十分には推し量ることはできませんでしたが、「深海魚が真っ暗な海底で、観覧車に一人で暮らしている少女に出会う」という自作解説を後から聞き、災厄にまみれた世界への虚無的な内容だろうという勝手な推察もそう外れていなかったと思います。現在の切迫した情況と裏腹の叙情性をあわせもつイメージ、そして絵画としての重層的な構造はとても好ましいし、静かだが貯蔵性の強い写生観を感じる作品です。描かれているのはものの輪郭なのに、私が私に感じるのと同じくらい世界と区切られていないものとして感じられるのです。そして、現在が多種多様なアイデンティティーを認識し合い、分かち合う時へと移り変わっていることを示した絵画だと評価しました。

視覚のかなたに隠されているものを画面に定着させた時に、絵画は生まれ、芸術とは理屈ではないのだと思い知らされます。理屈を超えたところに美の真実があるのかもしれません。京都は、元来そうした美の棲家（すみか）だったのだと思います。古くて新しい美の相貌をシャープに切り出していくことに、日本画の「現在」はかかっている。このコンクールの審査に参加して、つくづくそう思うのです。

（泉屋博古館東京館長）

図版

小谷　光　こたに ひかる／KOTANI Hikaru



1987　兵庫県西宮市に生まれる
2010　大阪芸術大学芸術学部美術学科日本画コース卒業
2011　日春展　入選（同13年）
　　京展　入選（京都市美術館）
2012　大阪芸術大学大学院絵画制作研究領域修士課程修了
　　第12回福知山市佐藤太清賞公募美術展　入選（福知山市厚生会館／京都他）
2013　第59回全関西美術展　ターレンス賞（大阪市立美術館）
2016　グループ展「瑛耀展」（京都府立文化芸術会館　同18、19年）
2017　新日春展　入選（同18、19、21、22年）
　　改組新日展　入選（同18、19年）
2018　青塔社展（京都府立芸術文化会館　同19、21、22年）
2019　京都 日本画新展2019（美術館「えき」KYOTO　同21年）
2021　日展　入選（同22年）
　　第27回新進芸術家美術展　芸術奨励賞（草津クレアホール／滋賀）

現在　新日春会会友
　　京都日本画家協会会員
　　青塔社所属

◎本展出品作について作家より
「深海魚が真っ暗な海底で、観覧車に一人で暮らしている少女に出会う」という場面を描きました。
今回は新聞紙を貼り合わせて日本画の絵具で描写しました。新聞紙を使用すると経済的にも環境的にも優しいのでおススメです。

大賞　meets

池上 真紀　いけがみ まさのり／IKEGAMI Masanori

1987　兵庫県神戸市に生まれる
2012　京都市立芸術大学作品展　奨励賞（同13年　大学院市長賞）
2013　京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程保存修復専攻修了
2017　第19回雪梁舎フィレンツェ賞展　入選（雪梁舎美術館／新潟、東京都美術館）
2018　FACE展2018損保ジャパン日本興亜美術賞展　入選（東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館／東京）
　　第27回飛騨高山臥龍桜日本画大賞展　入選（岐阜県美術館、高山市民文化会館）
2019　ONE ART TAIPEI 2019（ホテルシャーウッド台北）
2020　京都 日本画新展2020　優秀賞（美術館「えき」KYOTO　同21年優秀賞）
2021　京都日本画家協会第８期展（京都文化博物館）
2022　第９回郷さくら美術館桜花賞展（郷さくら美術館／東京）
　　生動2022（白沙村荘橋本関雪記念館／京都）
　　未景2022－御寺・ART・かたらい－ものがたる・ものがたり（泉涌寺／京都）

現在　京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より
決して語りかけてくるわけではないが、心を傾けることで聞こえてくる声があるように思う。長い時を存在し続けるものからは、その残響が時空を超えて流れ込んでくる。静かで壮大な響きとなって。

優秀賞　残響　Reverberation

大村 美玲　おおむら みれい／OMURA Mirei

1988　京都市に生まれる
2012　松伯美術館花鳥画展　大賞（松伯美術館／奈良　13年優秀賞）
　　京都花鳥館奨学金2012　最優秀賞
2015　創画展　入選（同16、17、19～21年）
2016　第25回公益財団法人佐藤文化国際育英財団奨学生
2017　京都日本画家協会第５期展（京都文化博物館　同19年）
　　京都市立芸術大学大学院美術研究科後期博士課程修了
2018　第８回前田青邨記念大賞展　奨励賞（東美濃ふれあいセンター／岐阜）
2019　第37回上野の森美術館大賞展　優秀賞（彫刻の森美術館賞）（上野の森美術館／東京）
　　Seed山種美術館日本画アワード2019（山種美術館／東京）
　　個展「息吹」（Art Space-MEISEI／京都）
2020　京都 日本画新展2020（美術館「えき」KYOTO）
2021　個展「breathe again」（古美術瀬戸／京都）

◎本展出品作について作家より
海の京都にて
海流の彼方に不死の世界、常世が古来より語られる中、丹後では海岸が舞台となる「浦嶋子」伝承や「久世戸縁起」をはじめ、元伊勢籠神社、仏教伝来後の成相寺の成立、浄土信仰から極楽浄土の舞台へと続きます。
穏やかな阿蘇海をふと見ると、異境を超えて彼方から辿り着いた、現在の日常の社に遭遇しました。

奨励賞・京都府知事賞　沙鴎　Seagull Shrine

松岡 勇樹　まつおか ゆうき／MATSUOKA Yuki

1994　京都府亀岡市に生まれる
2017　京都花鳥館賞2017作品展　優秀賞（京都花鳥館）
　　第８回前田青邨記念大賞展　入選（東美濃ふれあいセンター／岐阜）
2019　第39回上野の森美術館大賞展　賞候補（上野の森美術館／東京）
　　三菱商事・アート・ゲート・プログラム2018年度奨学金制度奨学生作品展（三菱商事ビル／新丸ビル／東京）
　　三菱商事・アート・ゲート・プログラム第44回チャリティーオークション　出品
　　第８回郷さくら美術館 桜花賞展（郷さくら美術館／東京）
　　三菱商事・アート・ゲート・プログラム第46回チャリティーオークション　出品
2020　京都市立芸術大学作品展2019　同窓会賞（京都市立芸術大学）
　　京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了
2022　NCS.OKAYAMAチャリティー展（GALLERY108／岡山）

現在　京都芸術大学通信教育部書画コース非常勤講師

◎本展出品作について作家より
私にとって描くことは、自己が世界を獲得する行為です。

この３年間の出来事に私は生と死、はじまりとおわりを意識し始め、創作は100均の紙に小さな点を打つことからはじまりました。次第に点は塊を成し、まるで大気の流動や超新星爆発、花のような造形を獲得しながら膨張しはじめました。

そうして私は“私の絵”のはじまりと出逢うことができました。

奨励賞・京都市長賞　はじまりもおわりもない　No Beginning, No End

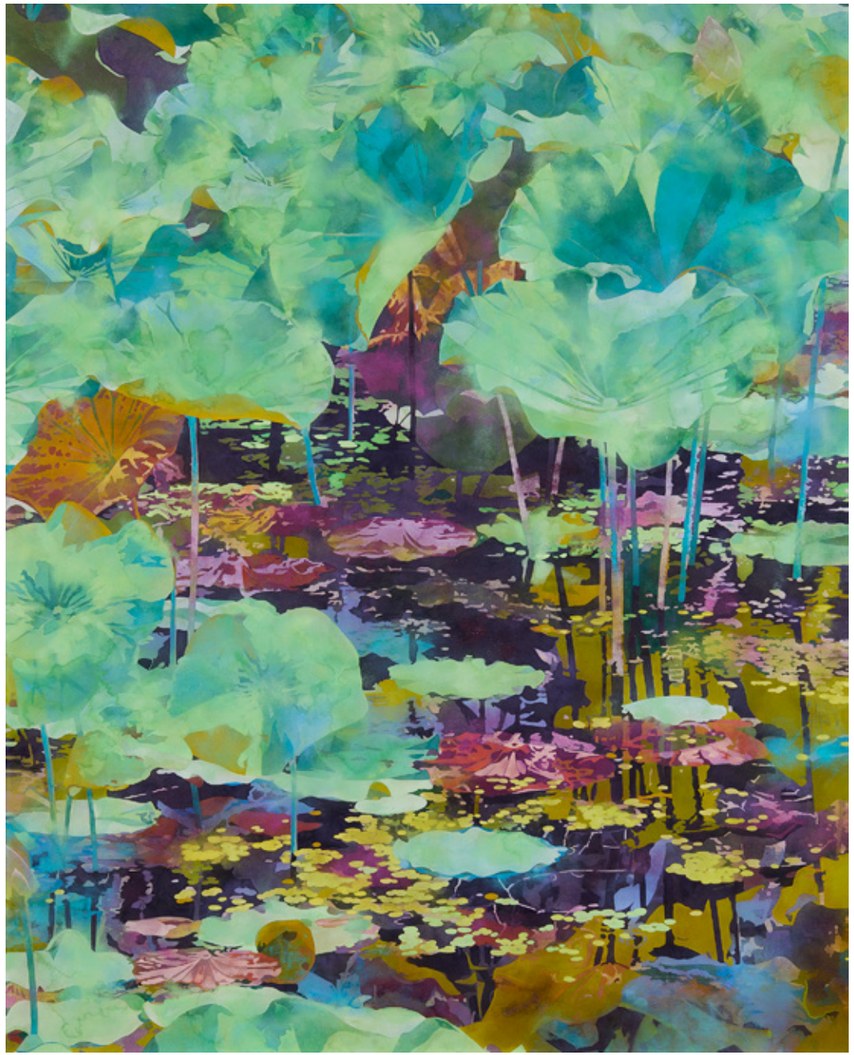
青野 圭花　あおの けいか／AONO Keika

1977　大阪府高槻市に生まれる
1998　日展　入選(同04年)
1999　松伯美術館花鳥画展　入選(松伯美術館／奈良　同01年)
　　青垣2001年日本画展　入選(青垣町民センター／兵庫)
2000　京展　入選(同02、04、08年)
2002　京都精華大学大学院芸術研究科日本画分野修士課程修了
2005　日春展　入選(同06、13年)
　　全関西美術展　佳作賞(大阪市立美術館　同06年　08年ターナー賞　00、13年入選)
2006　グループ展「騰展」(京都府立文化芸術会館　以後８回)
2009　TOH-TEN小品展(ギャラリー佐野／京都　以後７回)
2013　第５回 京都 日本画新展(美術館「えき」KYOTO)
2015　改組新日展　入選(同16～19年)
2016　「日本画－今という時代」(大阪高島屋美術画廊)
　　21世紀関西女性絵画展(兵庫県立美術館ギャラリー棟　同18、21、22年)
2017　新日春展　入選(同18、19、21、22年)
2019　京都 日本画新展 in 二条城～100人の画家・嵯峨野線を旅して～(二条城二の丸御殿台所・御清所／京都)
2020　京都 日本画新展2020(美術館「えき」KYOTO)
2021　日展　特選(22年無鑑査)

現在　日展会友
　　新日春会会友
　　京都日本画家協会会員
　　青塔社所属

◎本展出品作について作家より

初夏の明るい光の中、水面に蓮葉が鮮やかに映り込み、どこからが現実のものなのか、
わからない。
静かだけれども、風や虫や魚が確かに存在して、
葉も空気も水面も、絶えず揺れ動き、その度に色彩が溢れるような、水辺の風景を描
きたいと思いました。



奨励賞・京都商工会議所会頭賞　水映ゆ　Reflected on the Water

荒木 百花　あらき ももか／ARAKI Momoka

1998　滋賀県草津市に生まれる
2014　大津市展　入選（大津市歴史博物館／滋賀　同15、16年佳作）
2015　京展　入選（京都市美術館）
2021　成安造形大学美術領域３年 グループ展 ONCE IN A BLUE MOON（堀川御池ギャラリー／京都）
日吉大社絵馬原画制作（滋賀）
碧い石見の芸術祭2021 第６回石本正日本画大賞展　準大賞第一席（浜田市立石正美術館／島根）
2022　成安造形大学卒業制作展2022　優秀賞（京都市京セラ美術館）
成安造形大学美術領域日本画コース卒業
SELECTION卒業制作展（成安造形大学【キャンパスが美術館】／滋賀）
第９回京都５美術大学交流展　息吹（ちいさいおうち／京都）

◎本展出品作について作家より
自分にとって手は身近なところにあり、毎日見るものです。手には様々な動作やポーズ、表情があり、人によって少しずつ違うという魅力があると思います。「掬いあげる」という動作は、日常の様々な場面で行うものです。水を掬うなど、毎日自然にこの動作をしていることに気がついた時に面白さを感じ、描きました。

掬いあげる　Scoop Us

岩井 晴香　いわい はるか／IWAI Haruka

1986　滋賀県守山市に生まれる
2006　創画展　入選（同08～15、17、18、20～22年　07、16年奨励賞　19年創画会賞）
2007　上野の森美術館大賞展　入選（上野の森美術館／東京　同08、10年　09年１次賞候補）
　　春季創画展　入選（同09～22年　08年春季展賞）
　　京展　入選（同09～13年）
2008　京都精華大学芸術学部卒業
2009　松伯美術館花鳥画展　入選（松伯美術館／奈良　同12、13年）
2010　京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了
2011　平和堂財団　芸術奨励賞
2012　第４回 京都 日本画新展　優秀賞（美術館「えき」KYOTO）
2013　京都花鳥館奨学金2012　優秀賞
2014　京都日本画家協会第２期展　奨励賞（京都文化博物館）
2015　第２回 続 京都 日本画新展　賞候補（美術館「えき」KYOTO　同16年）
2016　個展（ギャラリーヒルゲート／京都　同18、20、22年）
2018　京都府新鋭選抜展2018－Kyoto Art Tomorrow－（京都文化博物館　同19、21年）
2022　第９回郷さくら美術館桜花賞展　奨励賞（郷さくら美術館／東京）

現在　創画会准会員
　　京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より
ありのままの自然であったり、永い時の中で形成されたその仕組みであったり。
景色を眺めながら、何をするわけでもなく、時間と空間に浸ります。
その記憶の蓄積や時々の思いを描いています。

夕刻の水辺　Waterside in the Evening

海野 厚敬　うんの あつたか／UNNO Atsutaka

1977　長野市に生まれる
2001　京都芸術短期大学芸術学部美術学科洋画コース研究生修了
　　新制作展　入選（国立新美術館／東京他　同02～11年、12～14年新作家賞、15年会員推挙）
2004　上野の森美術館大賞展　入選（上野の森美術館/東京他　同06～09、12、19年、05年優秀賞）
2007　京展　京展賞（京都市美術館）
2011　個展（ギャラリーヒルゲート／京都　同12、13、15、17、19、22年）
2013　公募団体ベストセレクション美術2013（東京都美術館）
2016　琳派400年記念新鋭選抜展－琳派 FOREVER－（京都文化博物館）
2018　BIWAKOビエンナーレ（近江八幡旧市街／滋賀　同20、22年）
2019　未景2019－御寺ART元年－（泉涌寺／京都　同21、22年）
　　アートオリンピア2019　優秀賞（東京都美術館）
2021　Any Kobe with Arts 2021（神戸市北野町／兵庫　同22年）
　　ART LIVE KOBE 2021（ANAクラウンプラザホテル神戸／兵庫）

◎本展出品作について作家より
目に見えるもの、個体、液体、気体。目に見えないもの、感情、音、理想像。
それらは常に動いていて一定のカタチは示さない。
その移ろう事象すべてに輪郭を与え同じ画面に閉じ込める。
それぞれの秩序や主張は入り乱れながらもこの世界は美しく形成されている。

風の跡をなぞって　Trace the Trail of the Wind

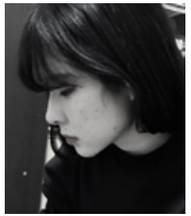
大槻 拓矢　おおつき たくや／OTSUKI Takuya

1989　奈良県橿原市に生まれる
2018　WONDER SEEDS 2018　入選（トーキョーアーツアンドスペース本郷／東京）
碧い石見の芸術祭2018 第４回石本正日本画大賞展（浜田市立石正美術館／島根）
第27回飛騨高山臥龍桜日本画大賞展　入選（高山市民文化会館／岐阜）
京都銀行美術研究支援制度2018年度購入作品選抜
2019　第37回上野の森美術館大賞展　賞候補（上野の森美術館／東京）
たとえばここに飾るとして（米原市醒井宿資料館／滋賀）
シェル美術賞展2019　学生特別賞（国立新美術館／東京）
FACE展2020　入選（SOMPO美術館／東京）
2020　京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科絵画専攻日本画修了
2021　Kyoto Art for Tomorrow 2021―京都府新鋭選抜展（京都文化博物館　同22年）
京芸 transmit program 2021（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA／京都）
3331 ART FAIR 2021（3331 Arts Chiyoda／東京）
2022　今年最初に見せたい絵2022（gallery TOWED／東京）
POP UP @KCUA（堀川新文化ビルヂング NEUTRAL／京都）
京都 日本画新展2022（美術館「えき」KYOTO）
ART ℃（石川画廊／東京）

◎本展出品作について作家より
写生や模写から得た図像を何度も描き写したりなぞったりしながら、それらを画面に配置して絵をつくる。

日に灼ける　In the Daytime

大西 佑奈　おおにし ゆうな／ONISHI Yuna



1999　三重県伊賀市に生まれる
2021　第21回福知山市佐藤太清賞公募美術展　特選・板橋区長賞（福知山市厚生会館／京都他）
2022　嵯峨美術大学芸術学部造形学科日本画・古画領域卒業

現在　嵯峨美術大学大学院芸術研究科在籍

◎本展出品作について作家より
「うつつ」という言葉には、どこか浮世離れしたような印象を持ちます。
現実は様々な事象で混雑していますが、その群像を俯瞰して眺めると曖昧ながら何か
輪郭が見えてくると考えています。

うつつ　Dream and Reality

奥田 有規　おくだ ゆき／OKUDA Yuki

1998　奈良県磯城郡田原本町に生まれる

2019　嵯峨美術大学日本画制作展「守破離－Shu・ha・ri－」（アートスペース嵯峨／京都同22年）

2021　嵯峨美術大学芸術学部造形学科卒業

碧い石見の芸術祭2021 第６回石本正日本画大賞展（浜田市立石正美術館／島根）

第21回福知山市佐藤太清公募美術展　入選（福知山市厚生会館／京都他）

2022　第40回上野の森美術館大賞展　入選（上野の森美術館／東京）

現在　嵯峨美術大学大学院芸術研究科在籍

◎本展出品作について作家より

写生を通して猿の生態を観察するうち、いのちを宿す個体の中で人間に近い仕草を見ることができる。人に在る恥じらいはなくそれぞれに多様なポーズを見せてくれる。そのような中でリラックスした姿が魅力的で描くこととした。

ほころぶ　HOKOROBU

開藤 菜々子　かいとう ななこ／KAITO Nanako

1990　東京都江戸川区に生まれる
2012　碧い石見の芸術祭2012 全国美術大学奨学日本画展（三隅中央会館／島根　同14年）
2014　大阪芸術大学芸術学部美術学科日本画コース卒業
2015　佐藤太清賞公募美術展　入選（京都／同16年福知山市長賞、同17年佐藤太清賞）
2016　大阪芸術大学大学院博士課程（前期）修了
　　塚本学院交友会会長賞、大阪芸術大学学長表彰
2017　SICF（スパイラルホール／東京　同18、19年）
　　第７回トリエンナーレ豊橋星野眞吾賞展　入選　審査員推奨佐藤道信（豊橋市美術博物館／愛知）
　　ヤングクリエイターズアワード2017　優秀賞・加藤義夫審査員賞（MI Gallery／大阪）
　　DOJIMA RIVER AWARDS 2017―NUDE―　佳作（堂島リバーフォーラム／大阪）
2018　第20回記念雪梁舎フィレンツェ賞展　優秀賞（雪梁舎美術館／新潟　同19年　20、21年佳作）
　　美の起原展　奨励賞（銀座画廊・美の起源／東京　同19、20年入選）
2019　アートオリンピア2019　佳作（東京都美術館）
　　京都 日本画新展2019（美術館「えき」KYOTO　同21年）
　　ART OSAKA 2019（ホテルグランヴィア大阪）
2020　個展「開藤菜々子展」（GALLERY ART POINT／東京）
　　3331 ART FAIR（ARTS CHIYODA 3331／東京）
　　個展「いろはに」（gekilin.／大阪）
2021　個展「風化していくものの美しさ」（あべのハルカス近鉄本店・ウォールギャラリー／大阪）
2022　個展「うつらふ」（gekilin.）

◎本展出品作について作家より
私は制作をする際に“いま”を大切にしています。五感や心で感じた一瞬を原点に、思いやメッセージを重ねて「刻」をテーマに描き続けていきます。

をちかた　OCHIKATA

梶浦 隼矢　かじうら じゅんや／KAJIURA Junya

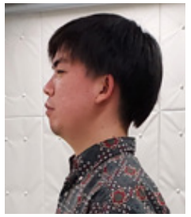
1990　愛知県稲沢市に生まれる
2011　金澤日本画二人展（ギャリエヤマシタ／京都）
2012　京都春季創画展　入選（同13、16～22年）
　　碧い石見の芸術祭 全国美術大学奨学日本画展（三隈中央会館／島根　同13、16年
　　14年奨励賞）
2013　金沢美術工芸大学美術工芸科日本画専攻卒業
2014　上野の森美術館大賞展（上野の森美術館／東京、京都文化博物館　同15、17年）
　　京展　入選（京都市美術館）
　　創画展　入選（同16～22年）
2015　京都造形芸術大学大学院芸術表現専攻ペインティング領域修了
　　筍々会展（京都府文化芸術会館　同16年）
2016　碧い石見の芸術祭2015 第１回石本正日本画大賞展（浜田市立石正美術館／島根）
　　FINE ART/UNIVERSITY SELECTION 2016-2017（茨城県つくば美術館）
2017　続 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO　同18年）
　　成安造形大学芸術学部西久松研究室修了
　　第17回福知山市佐藤太清賞公募美術展　入選（福知山市厚生会館／京都、横浜赤レンガ倉庫１号館／神奈川、
　　成増アクトホール／東京、名古屋市民ギャラリー矢田、京都文化博物館）
2018　京都府新鋭選抜展2018 ―Kyoto Art for Tomorrow―（京都文化博物館　同19年）
　　日本画卒業生展（成安造形大学【キャンパスが美術館】／滋賀）
　　京都日本画家協会第６期展（京都文化博物館）
2019　京都 日本画新展2019（美術館「えき」KYOTO）
　　第25回新進芸術家美術展（ビバシティ彦根、草津市立草津クレアホール／滋賀　同20、22年）
2020　京都花鳥館賞奨学金2019

現在　創画会会友
　　京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より
京都にある勧修寺に写生に出かけました。まだ梅雨が明けきらない夏前の季節だった
と思います。池を眺めているとポツポツと雨が降ってきて、蓮にあたる雨音と水面に
落ちる波紋を美しく感じました。

小雨　Light Rain

岸本 祥太　きしもと しょうた／KISHIMOTO Shota



1994　兵庫県加古川市に生まれる
2014　京展　館長奨励賞（京都市美術館）
2017　成安造形大学芸術学部卒業
2018　Flag of the West 2018 広島市立大学芸術学部日本画制作展（佐藤美術館、数寄和、森田画廊／東京）
創画展　入選（同20～22年）
HOT サンダルプロジェクト2018（丸亀市生涯学習センター／香川）
2019　第20回広島市立大学卒業修了制作展　修了制作優秀賞（広島市立大学、旧日本銀行広島支店、合人社ウェンディひと・まちプラザ／広島）
広島市立大学大学院芸術学研究科修了
芸美会展（福屋八丁堀本店美術画廊／広島　同20～22年）
2021　京都春季創画展　入選（同22年）
第28回飛騨高山臥龍桜日本画大賞展　入選
ギャラリーへ行こう2021　入選（数寄和／東京　同22年）
Flag of the West 2021 其々の景色（新宿髙島屋美術画廊／東京）
2022　個展（ギャラリーマロニエ／京都）
Flag of the west 2022（広島県立美術館県民ギャラリー、ギャラリーG／広島）
京都日本画家協会第９期展（京都文化博物館）

現在　創画会会友
京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より
風雨に晒された樹皮は、永い年月を経てそのものらしい美しさを宿していきます。
それは、ただ命を継続するための変容であると同時に、力強い表現のようにも感じます。

樹塊　Block of Tree

権　美愛　ごん みえ／Kwon Miae

1986　大阪市に生まれる
2007　創画展　入選（同08～10、12、13、15、22年）
2008　第14回松伯美術館花鳥画展　入選（松伯美術館／奈良）
　　春季創画展　入選（同13、14年　10、11、22年春季展賞）
2009　京都精華大学芸術学部造形学科日本画コース卒業
　　京展　入選（京都市美術館）
　　個展「権美愛日本画展」（堺TKCギャラリー／大阪）
2010　京都銀行美術研究支援制度により作品買い上げ
2011　京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了
　　筍々会展（京都府立文化芸術会館）
2012　京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO　同13年）
2015　京都日本画家協会第３期展　奨励賞（京都文化博物館）
　　全関西美術展　サクラクレパス賞（大阪市立美術館）
2018　第５回 続 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）
2019　京都 日本画新展 in 二条城～100人の画家・嵯峨野線を旅して～（二条城二の丸御殿台所・御清所／京都）

◎本展出品作について作家より

カッコイイ女性の人物画が描きたいなぁと思いたって描き始めましたが、次第に見た目に理想的な美しい女性だけではなんだか物足りなくなり、女性が持つ生き物としての生々しさを表現する事に興味を持ちました。生きていれば経験する楽しさやしんどさ、色々あってあたりまえ。そういったものをポジティブにカラフルに、且つ強い画面を追いました。

美しき春尽、そして一層　The End of a Beautiful Spring, and Even More.

高橋 翔平　たかはし しょうへい／TAKAHASHI Shohei

1997　大阪市に生まれる
2019　第３回新日春展　入選（同21、22年）
　　第65回全関西美術展　入選（大阪市立美術館）
　　改組新第６回日展　入選
2020　京都精華大学展2020卒業・修了発表展　学長賞（京都精華大学）
　　京都花鳥館賞奨学金2020　最優秀賞
2021　碧い石見の芸術祭2021 第６回石本正日本画大賞展　入選（浜田市立石正美術館／島根）
2022　高橋翔平・吉田松之助－日本画二人展－「鼓動」（アートギャラリー北野／京都）
　　京都精華大学大学院芸術研究科日本画領域博士前期課程修了
　　高橋翔平 日本画展「楽園」（ギャラリー佐野／京都）
　　日展　入選

現在　京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より
向日葵は花が終わってから１カ月程、種を作る時期に入ります。花が終わり向日葵の背筋が曲がってきている中で、子孫を残そうと種子を生成している様子が印象的で写生を繰り返し、作品を制作しました。

夏が終わる　Summer is Over

竹内 茉利　たけうち まり／TAKEUCHI Mari

1992　大阪府河内長野市に生まれる
2013　碧い石見の芸術祭2013 全国美術大学奨学日本画展　準大賞（浜田市立石正美術館／島根）
2015　高野山真言宗正寿院客殿花天井画奉納（京都）
　　春季創画展　入選（同16年）
　　創画展　入選（同16、19～21年）
2016　碧い石見の芸術祭2015 第１回石本正日本画大賞展　奨励賞（浜田市立石正美術館）
2017　大阪芸術大学大学院芸術研究科芸術制作専攻修了
　　第４回 続 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）
2019　京都 日本画新展 in 二条城～100人の画家・嵯峨野線を旅して～（二条城二の丸御殿台所・御清所／京都）
2021　京都 日本画新展2021（美術館「えき」KYOTO　同22年）
　　五人展　日本画合同個展（アートギャラリー北野／京都）

現在　創画会会友

◎本展出品作について作家より
この流れの先はどのように続いているのかと好奇心がくすぐられ、うねる形や動きに面白さを感じます。流れのある風景を重ね、その魅力を引き出したいと思い、描きました。

続く　Continue

竹歳 和真　たけとし かずま／TAKETOSHI Kazuma

1998　大阪府枚方市に生まれる
2018　嵯峨美術大学進級展（嵯峨美術大学／京都　同19、20年）
2019　嵯峨美術大学日本画制作展「守破離－shu・ha・ri－」（アートスペース嵯峨／京都）
2020　福知山市佐藤太清賞公募美術展　入選（福知山厚生会館／京都他　同21年）
2021　嵯峨美術大学令和２年度卒業制作展（京都市京セラ美術館）
　　嵯峨美術大学芸術学部造形学科日本画領域卒業
　　碧い石見の芸術祭2021 第６回石本正日本画大賞展　準大賞（浜田市立石正美術館／島根）
　　京都花鳥館賞奨学金2021　入選
2022　嵯峨美術大学大学院進級制作展（嵯峨美術大学）

現在　嵯峨美術大学大学院芸術研究科芸術専攻修士課程２年在籍
　　クマ財団クリエイター奨学金　６期生

◎本展出品作について作家より
岩を前に座ると、冷たい山風が身をさす。背の方を流れる川の音や湿った土、山草の匂いが心地よい。そこに身を据え、岩と向き合う。雨が降る日も足を運ぶ。雲が裂け太陽がそこを照らすと草露が輝き美しい。

拠所　Gather

田中 翔子　たなか しょうこ／TANAKA Syoko

1989　京都市に生まれる
2008　京都市立銅駝美術工芸高等学校デザイン科卒業
2010　全関西美術展　入選（大阪市立美術館　同12、15年）
2012　京都精華大学芸術学部造形学科日本画コース卒業
　　京展　入選（同13～15、17年）
　　飛騨高山臥龍桜日本画大賞展　入選（岐阜県美術館、飛騨位山文化交流館　同15年）
　　松伯美術館花鳥画展　入選（松伯美術館／奈良　同15年　13年大賞）
2013　2014年第４回池田泉州銀行カレンダー原画公募　最優秀作
　　京都春季創画展　入選（同14、16～21年　15年春季展賞）
　　創画展　入選（同15～17、19、20、22年）
2014　京都精華大学大学院博士前期課程芸術研究科日本画修了
2015　日本画二人展「霧と原石真珠（ペルル）と月」（ART GALLERY KITANO／京都）
2016　企画展「THE TERMINAL KYOTO Presents Art Markets」（The Terminal KYOTO）
2017　京都日本画家協会第５期展（京都文化博物館　同19年）
2018　筍々会展（京都府立文化芸術会館　同19年）
　　第36回上野の森美術館大賞展　入選（上野の森美術館／東京）
2019　京都 日本画新展2019（美術館「えき」KYOTO　同20年）
2020　第３回松伯日本画展　入賞（松伯美術館）
　　日本画三人展（三木美術館・galleryアートスペースmiki ／兵庫）
2022　企画展「未来につなぐ日本画展－松伯美術館公募展大賞受賞作家の現在（いま）－」（松伯美術館）

現在　創画会会友
　　京都日本画家協会会員

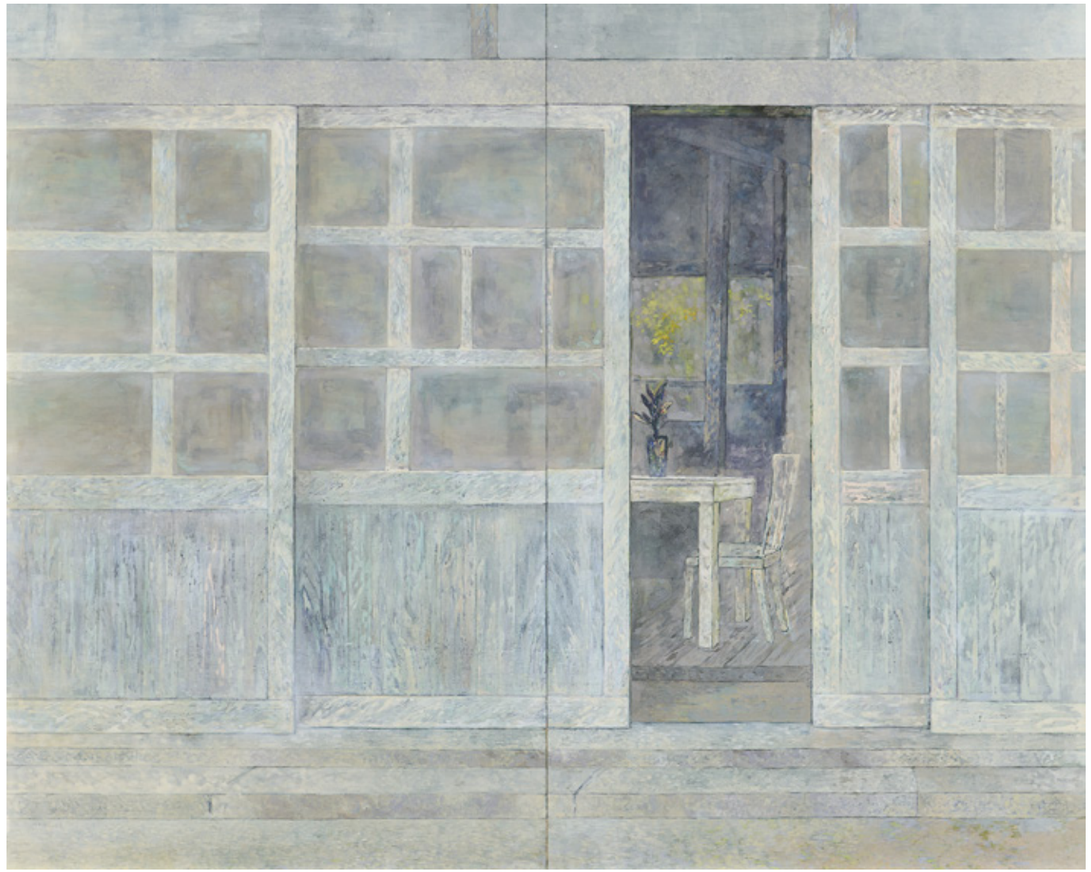
◎本展出品作について作家より
里の風景にお祝いの花束を添えて…また共に…
自然と隣り合って生きる一体感や日常に湧き起こるエネルギーを感じた。
使って良い時間を存分に使って、ようやく解って使い始めたような…与えられている
ことに感謝。

里－日のひかり－　Town -Sunlight-

辻脇 怜奈　つじわき れいな／TSUJIWAKI Reina

1999　大阪府藤井寺市に生まれる
2021　第47回京都春季創画展　入選（同22年）
2022　第48回創画展　入選
　　奈良芸術短期大学専攻科修了

◎本展出品作について作家より
静かで懐かしいような、とても心地の良い空間だった。あの時に出会った気持ちを描き留めたいと思い、制作に至った。



白光　HAKKOU

西田 鳩子　にしだ はとこ／NISHIDA Hatoko

1993　京都市に生まれる
2016　京都市立芸術大学美術学部卒業
2017　第４回 続 京都 日本画新展　賞候補（美術館「えき」KYOTO）
　　改組新日展　入選（同18～20年）
　　第１回新日春展　入選（同19、21、22年）
2018　京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了

◎本展出品作について作家より
仕事とプライベートの溶け合う境界線を、無理矢理にでも描き出して暮らしている、
そんな日々の生活を描きました。

Private

長谷川 悠太　はせがわ ゆうた／HASEGAWA Yuta

1997　兵庫県三田市に生まれる
2019　第45回京都春季創画展　入選
2020　個展「山のフォルム」(京都市立芸術大学小ギャラリー)
2021　個展「遠望」(スタジオツキミソウ／京都)
　　企画展「山怪」(瑞雲庵／京都)
　　碧い石見の芸術祭2021 第６回石本正日本画大賞展　入選(浜田市立石正美術館／島根)
　　グループ展「自然或は風景」(ギャラリーメイン／京都)
2022　京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻日本画修了

現在　京都市立芸術大学大学院博士(後期)課程美術研究科日本画領域在籍

◎本展出品作について作家より
私のテーマは「地形の広がり」です。今回は鍾乳洞をモチーフに制作しました。四方に延びる岩肌が織り成す形は幽玄な様相を帯び、奥に意識を吸い込まれるような空洞は畏怖の念を覚えます。このような感覚を元に、地形が本来持つあるがままの世界を画面に表すことに尽力しています。

洞窟のなかの心　Heart in the Cave

原田 有希　はらだ ゆき／HARADA Yuki

1986　大阪府八尾市に生まれる
2009　第27回市展なら　奨励賞（奈良市美術館）
　　春季創画展　入選（同10～12年、13年春季展賞、14年）
2010　第57回全関西美術展賞　第二席受賞（大阪市立美術館）
　　創画展　入選（同12、13年）
2011　碧い石見の芸術祭2011 美術大学選抜日本画展　奨励賞（浜田市立石正美術館／島根）
2012　第11回福知山市佐藤太清公募美術展　特選 福知山市長賞（福知山市厚生会館／京都他）
2013　京都精華大学大学院芸術研究科博士前期課程修了
　　瀬戸内国際芸術祭2013（高見島／香川）
2014　京都国際映画祭クリエイターズ・ファクトリー アート部門　優秀賞（元立誠小学校／京都）
2015　日本画の楽しみ～新しい表現への挑戦～（香美市立美術館／高知）
2016　神戸アートマルシェ2016（神戸メリケンパークオリエンタルホテル／兵庫　同17、18、22年）
2017　個展「いとほし」（SYSTEMAギャラリー／大阪　同19、20年　同22年田川市美術館／福岡）
　　ART MARKET BUDAPEST 2017（ブダペスト　同18、19、22年）
2018　ART FAIR ASIA FUKUOKA2018（ホテルオークラ福岡　同19、21、22年）
2019　クリエイターズ・ファクトリー優秀作品展（花のれんタリーズ／大阪）
　　Leaves展 vol.1（ギャラリー16／京都　同21、22年）
2020　Affordable Art Fair Milan 2020（ミラノ）
2021　NEJA-ism（SYSTEMAギャラリー　22年福岡アジア美術館）
　　ACTアート大賞展　入選（アートコンプレックスセンター／東京）
2022　京都日本画家協会第９期展（京都文化博物館）

◎本展出品作について作家より
気まぐれに、次々と好奇心の焦点を変えていく子供たちは、常に流動的で決してとどまらない。そんな幼子への尽きない愛おしさと愛情を表現すると同時に、苛立ちや緊張といった感情も隠すことなく重ねていく。その相反する感情を混在させたまま、母の小さな祈りが作品全体を包み込む。

等身の詩　Poetry

福田 浩之　ふくだ ひろゆき／FUKUDA Hiroyuki

1978　京都市に生まれる
2001　京展　入選（02年栖鳳賞　07年京都市美術館賞）
2002　京都造形芸術大学芸術学部美術工芸学科日本画コース卒業
2004　個展（立体ギャラリー射手座／京都　同06年）
2005　第８回NEXT展　招待出品（京都髙島屋グランドホール、砺波市美術館／富山）
　　第３回トリエンナーレ豊橋　星野眞吾賞展
2007　京都府美術工芸新鋭選抜展　審査員推奨作品（京都文化博物館）
　　松伯美術館花鳥画展　優秀賞（松伯美術館／奈良　同08年入選）
　　日春展　奨励賞（09、10年入選）
　　日展　特選（08～11、13年入選）
2008　第７回菅楯彦大賞展（倉吉博物館／鳥取）
2009　京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO　同13年）
2014　個展（Art Space-MEISEI／京都　同16、18年）
　　改組新日展　入選（同15年特選、以降毎年入選）
2015　京都日本画家協会第３期展　奨励賞（京都文化博物館）
2016　第３回 続 京都 日本画新展　賞候補（美術館「えき」KYOTO）
2020　京都 日本画新展2020（美術館「えき」KYOTO）
2022　第２回「現在日本画研究会」（京都市美術館別館）

現在　日展準会員
　　京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より
山間の地に移り住みアトリエを構え、自然に囲まれた生活と制作。自然と人との距離感とその有りようを探っている。自ら採集した土を絵具にし、作品との和解点を問いかける。
日々、生み出されていく自然を感じながら制作している。

March of Branches and Ivy

古谷 優加子　ふるたに ゆかこ／FURUTANI Yukako

1986　兵庫県姫路市に生まれる
2008　春季創画展　入選（同09～14年）
　　京展　入選（京都市美術館）
2010　創画展　入選（同11、14年）
2011　成安造形大学日本画クラス研究生修了
2012　第４回 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）
2013　京都日本画家協会第１期展（京都文化博物館　同21年）
2015　第２回 続 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO）
　　姉妹展（ギャラリーマロニエ／京都）
2016　「湖派～Lake current～」（堀川御池ギャラリー／京都）
2022　「桃花流水（新鋭作家特集）」（かわうそ画廊／東京）

現在　京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より
稚児行列へ参列した在りし日の娘たち。
コロナ禍で社会生活が一変し、伝統文化の保存・継承が危ぶまれる昨今。
世界が大きく変わっても伝統は途切れない。
新しい命に継承されゆく姿をここに。

追憶の色　The Color of Reminiscence

松田 朋子　まつだ ともこ／MATSUDA Tomoko

1989　兵庫県豊岡市に生まれる
2010　春季創画展　入選
2012　京都市立芸術大学作品展　市長賞・山口賞（京都市美術館他）
　　松田朋子・小林紗世子ふたり展（ヤマモトギャラリー／京都）
　　京都花鳥館賞奨学金2012　優秀賞
2013　中央美術学院（北京）へ交換留学
2014　京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程修了
　　創画展　入選（同15年）
2015　続 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO　同16年）
2018　雪梁舎フィレンツェ賞展　入選（雪梁舎美術館／新潟、東京都美術館　同20年）
2019　個展（Art Space-MEISEI／京都）
2021　個展（田中美術／神戸　同22年）
2022　京都 日本画新展2022（美術館「えき」KYOTO）
　　第９回郷さくら美術館桜花賞展（郷さくら美術館／東京）

◎本展出品作について作家より
四季折々の自然の営みと人間の心模様が一体となった古典和歌の世界にあこがれ、自分なりの解釈を花卉草虫に託して描いています。
水茎は　これをかぎりと　かきつめて　せきあへぬものは　涙なりけり
（『千載和歌集』より）

水茎の涙　Letter of Tears

村田 幸子　むらた さちこ／MURATA Sachiko

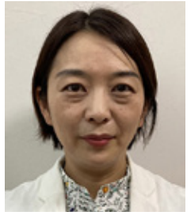
1981　奈良県天理市に生まれる
2003　奈良芸術短期大学専攻科日本画コース修了
　　春期創画展　入選（同07、16～18、21、22年）
2004　第10回松伯美術館花鳥画展　入選（松伯美術館／奈良）
　　創画展　入選（同06、19～22年）
2005　奈良芸術短期大学研究科修了
2010　展々展（京都府立文化芸術会館　同11～15年）
2015　京都日本画家協会第３期展（京都文化博物館　同18、22年）
2020　荀々会展（京都府立文化芸術会館　同21年）

現在　創画会会友
　　京都日本画家協会会員

◎本展出品作について作家より
絵と向き合う時はいつも、心に在るしんとした情景を想います。それはとても淡いひかりなのですが、尊いのです。縦横無尽に伸びる根がそのひかりを渇望している手のように見えるのですが、その姿に自分を重ねてしまうのです。

時を攫う　Steal Time

森　桃子　もり ももこ／MORI Momoko



1977　北海道札幌市に生まれる
2001　京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻（模写）卒業
2002　松伯美術館花鳥画展　優秀賞（松伯美術館／奈良）
　　日春展　入選（同05、06、08～12年、13年奨励賞、15年）
2003　京都市立芸術大学大学院制作展（模写）　大学院市長賞・同窓会賞（京都市美術館）
　　京都市立芸術大学大学院美術研究科保存修復専攻保存修復修士課程修了
2006　京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻日本画修士課程修了
　　日展　入選（同08、10、12、13年）
　　個展（TOR GALLERY／神戸）
2009　京都市立芸術大学大学院美術研究科博士（後期）課程美術専攻日本画領域単位取得退学
　　個展（石田大成社ホール・ICB／京都）
2010　第56回全関西美術展　ターレンス賞（大阪市立美術館　12年第二席、15年第一席、18、19年サクラクレパス賞）
2014　続 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO　同18年）
　　改組新第１回日展　入選（日展京都展京都新聞社賞）（同15年特選、16年無鑑査、17、18年）
2016　青晴会日本画展（髙島屋／横浜、大阪、京都　同17、18年　同19年髙島屋／大阪、新宿　同20年髙島屋／大阪）
　　公募団体ベストセレクション美術2016（東京都美術館）
2017　第１回新日春展　入選（同18～22年）
2019　京都 日本画新展 in 二条城～100人の画家・嵯峨野線を旅して～（二条城二の丸御殿台所・御清所／京都）
　　個展（ギャラリー恵風／京都　同22年）
2020　佐藤国際文化育英財団第29回奨学生美術展　招待出品（佐藤美術館／東京）
2021　日展　入選

◎本展出品作について作家より
自然を歩き、対象をみつめ、そのかたちを足がかりにして、
私が感じたその場の質感、温度、湿度、空気の色や厚みを写生します。
そして、日本画画材の力を借りながら、自然の持つ様々な相貌に思いをいたし、
感じた在りようを作品として象（かたど）るべく制作に臨んでいます。

緑陰　Shade of Greenery

森中　歩　もりなか あゆみ／MORINAKA Ayumi

1988　三重県鈴鹿市に生まれる
2012　春季創画展　入選（同19～22年、同13～18年春季展賞）
　　創画展　入選（同13、15～22年、14年奨励賞）
2013　奈良芸術短期大学専攻科修了
　　原展（ギャラリー恵風／京都　同14年ギャラリー祇園小舎／京都　同17年京都府立文化芸術会館　同19年ギャラリーマロニエ／京都）
2014　続 京都 日本画新展（美術館「えき」KYOTO　15年賞候補、16年）
2019　京都 日本画新展 in 二条城～100人の画家・嵯峨野線を旅して～（二条城二の丸御殿台所・御清所／京都）
2020　七搬展（ギャラリー Create 洛／京都　同22年）
2021　城北展（ギャラリーえがく・Kusakabe Garally合同企画／京都　同22年）
2022　第９回郷さくら美術館桜花賞展（郷さくら美術館／東京）

現在　創画会会友

◎本展出品作について作家より
無遠慮に伸びてゆく木の枝、青々とした葉。
香り立つ土と葉には小さな虫たち。足を伝って微かに感じる地響きが、動物たちの気配を思わせる。
山のこと、あらゆる生き物たち、出会うほどにまだ知らない事を思い知る。
捉え難いほどに豊かで恐ろしい、この自然の煌めきを、なんとか描こうと筆を持つ日々です。

大地の唄　Song of the Earth

矢野 瑞季　やの みずき／YANO Mizuki

1996　大阪府堺市に生まれる
2018　京都花鳥館賞2017作品展（京都花鳥館）
2020　京都市立芸術大学美術学部美術科日本画専攻卒業
2021　第28回飛騨高山臥龍桜日本画大賞展　入選
2022　京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻修了
　　個展（ギャラリー恵風／京都）

◎本展出品作について作家より
１、２年前から同じ写生をもとにツバキの絵を描いてきました。
今回はその写生から少し距離を置いて、写生の時に過ごしたツバキとの時間を思い出しながら制作しました。

思い出し椿　That Camellia

推薦委員
図版

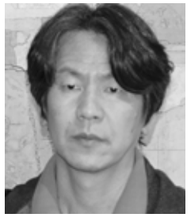
石股　昭　いしまた あきら／ISHIMATA Akira

1957　京都市に生まれる
1982　春季創画展　初入選（86、88、89、92、93、95、03年春季展賞）
　　創画展　初入選（97、05、06年創画会賞）
　　京都美術選抜展　京都府買い上げ（84年）
1983　京都市立芸術大学大学院美術研究科修了
1988　芸術家国内研修員（文化庁）
1989　山種美術館賞展（同95、97年）
　　次代を担う作家展（同91年　93年準大賞）
1999　京展　京都市美術館コレクション賞
2006　創画会会員推挙
2019　京都 日本画新展2019（美術館「えき」KYOTO　同20、21、22年）

現在　奈良芸術短期大学教授
　　創画会会員

木の詩　Poetry of Trees

雲丹亀 利彦　うにがめ としひこ／UNIGAME Toshihiko



1966　兵庫県姫路市に生まれる
1989　大阪芸術大学芸術学部美術学科卒業
1998　創画展　創画会賞（同99～01年）
　　京都日本画家協会新鋭選抜展　京都府知事賞
1999　雲丹亀利彦展（西脇市岡之山美術館／兵庫）
　　文化庁現代美術選抜展（同02年）
2000　姫路市芸術文化賞芸術年度賞
2003　兵庫県加西市文化連盟芸術文化功労賞
2004　兵庫県芸術奨励賞
2006　兵庫県芸術文化活動支援事業　日本画雲丹亀利彦展（兵庫県立美術館）
2013　「地歩を固めた作家たち」雲丹亀利彦展（西脇市岡之山美術館／兵庫）
2015　公募団体ベストセレクション美術2015（東京都美術館）
2016　「エスキースからの展開」雲丹亀利彦京都現代作家展（京都府立堂本印象美術館）
2018　「刻の形象」雲丹亀利彦展（三木美術館／兵庫）
2019　京都 日本画新展2019（美術館「えき」KYOTO　同20、21、22年）
　　「日本画～絵日記のように」雲丹亀利彦展（瀬戸内海国立公園ホテルシーショア・リゾート／兵庫）

現在　京都精華大学教授
　　創画会会員

春　Spring

大沼 憲昭　おおぬま のりあき／ONUMA Noriaki

1954　石川県金沢市に生まれる
1976　大谷大学文学部卒業
　　パンリアル美術協会展（京都市美術館　春・秋季展毎年出品93年退会）
1981　山種美術館賞展「今日の日本画」（同87、89、91、98年）
1985　京都美術選抜展（京都市美術館　同86、89、91、98、00、02年）
1986　石川県作家選抜美術展（石川県立美術館　同92年）
　　青垣2001年日本画家展（青垣町民センター／兵庫）
1988　日本画の裸婦展（埼玉県立近代美術館）
1989　京都日本画新鋭選抜展　奨励賞（大三島美術館／愛媛　同94年）
1990　菅楯彦大賞展（倉吉博物館／鳥取）
　　京都新聞日本画賞展　優秀賞（大丸ミュージアム京都　91、92年大賞　93年招待）
1991　京都画壇日本画秀作展（京都髙島屋、大丸京都店　同92年）
1992　いのち讃歌日本画100人展（大丸ミュージアム京都）
　　「両洋の眼」現代の絵画展（日本橋三越本店／東京　同93、95、96年）
1993　第12期現代京都美術・工芸展（京都文化博物館）
1998　第１回NEXT展（京都髙島屋グランドホール　07年閉会まで毎年出品）
2002　第15回個展（髙島屋／京都、東京、大阪　同10年）
2004　日本画「京の今日」展（京都文化博物館）
2006　第６回工筆画大展 招待（北京・中国美術館）
2009　「観○光」ART・EXPO―日本の美とこころ―（二条城、泉涌寺／京都、建長寺、円覚寺／鎌倉 他　2018年まで毎年出品）
2013　日本画こころの京都展（京都文化博物館）
2014　京都日本画家協会第２期展（京都文化博物館）
2015　京に生きる琳派の美（京都文化博物館　同16年　日本橋髙島屋／東京）
2018　京都日本画家協会第６期展（京都文化博物館）
2019　京都 日本画新展2019（美術館「えき」KYOTO　同20、21、22年）
　　未景2019―御寺ART元年―（泉涌寺　同21、22年）

現在　嵯峨美術大学教授

登龍門　A Process to Success

川嶋　渉　かわしま わたる／KAWASHIMA Wataru

1966　京都市に生まれる
1989　京都精華大学卒業
1990　日展入選（以後出品　96、02年特選）
2004　京都市芸術新人賞
2006　京都迎賓館作品制作
2009　東方岩彩画展　東アジアにおける岩彩画の展開（上海）
2011　敦煌意象・中日岩彩画展（敦煌）
2013　日本画こころの京都展　京都府買い上げ（京都文化博物館）
2016　琳派400年記念『―琳派降臨―近世・近代・現代の「琳派コード」を巡って』（京都市美術館）
　　室生寺　室生山水図屏風制作
2017　京都だって猫展（京都文化博物館）
2018　改組新第５回日展　京都展京都市長賞
2019　個展「粒であり 波である」（大雅堂／京都）
　　京都 日本画新展2019（美術館「えき」KYOTO　同20、21、22年）
2020　STEAM THINKING ―未来を創るアート 京都からの挑戦 アート×サイエンス LABOからGIGへ（京都市京セラ美術館 本館）
　　KYOTO STEAM 2020 国際アートコンペティション スタートアップ展（京都市京セラ美術館 新館 東山キューブ）
2021　Lost in Translation（京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA／京都）

現在　京都市立芸術大学教授
　　日展会員

粒であり波である　Wave-Particle Duality

西久松 吉雄　にしひさまつ よしお／NISHIHISAMATSU Yoshio

1952　京都市に生まれる
1979　京都市立芸術大学美術専攻科日本画専攻修了
　　第４回京都日本画美術展　新人賞　海外研修派遣（京都府ギャラリー）
1986　美術選抜展（京都市美術館　同89、92年）
1992　第26回現代美術選抜展（秋田県立近代美術館他　同96年）
1994　第４回京都新聞日本画賞展　大賞
1995　第13回山種美術館賞展　優秀賞（山種美術館／東京）
1999　日本画の新世代展（大丸ミュージアムTOKYO／東京、他）
　　現代日本絵画の展望展（東京ステーションギャラリー）
2000　両洋の眼展（松坂屋美術館／愛知、他　同03年）
2010　第23回京都美術文化賞
2012　自然学―来るべき美学のために（滋賀県立近代美術館）
2014　『古の贈り物・日本画家西久松吉雄の世界』サンライズ出版
　　梅原猛卒寿記念―梅原猛と25人のアーティスト展（髙島屋日本橋店／東京、他）
2015　西久松吉雄展―祈りの地・古の風景（浜田市立石正美術館／島根）
　　第25回秀明文化賞
2019　京都 日本画新展2019（美術館「えき」KYOTO　同20、21、22年）
　　西久松吉雄・綾・友花展（中信美術館／京都）
2020　第38回京都府文化賞功労賞

現在　成安造形大学名誉教授
　　創画会常務理事
　　浜田市立石正美術館館長

彼岸　Equinoctial Week

村居 正之　むらい まさゆき／MURAI Masayuki

1947　京都市に生まれる
1968　青塔社入塾、池田遙邨に師事
1971　日展初入選
1975　日展特選（同90年　94、98、04、10、18、21年審査員　18年文部科学大臣賞）
1977　山種美術賞展（以後３回）
1984　日本画・その明日への展望展
　　個展「ニューヨーク・ニューヨーク」
1985　個展（和光ホール／東京　同87、90、94、00、04、10、17年）
1990　日本画・現代の視覚展（新潟市立美術館）
1991　グループ具具展（同93、95、97、99年）
1993　蓮塘会（同94～02年）
1998　グループNEXT展（同99～07年）
2007　個展「画業40年記念」（東大阪市民美術センター／大阪）
2017　個展「画業50年の歩み」（和光ホール、阪急うめだ本店９階阪急うめだギャラリー／大阪）
　　再生と革新～逆襲の最前線「日本画山脈展」（新見美術館／岡山、唐津市近代図書館／佐賀、蘭島閣美術館／広島、八幡浜市民ギャラリー／愛媛）
2019　京都 日本画新展2019（美術館「えき」KYOTO　同20、21、22年）
2020　日本芸術院賞・恩賜賞
　　日本芸術院会員に就任
2022　個展「歴史を刻む 日本画の輝き」画業55年日本藝術院会員就任記念（阪急うめだギャラリー／大阪）

現在　大阪芸術大学美術学科教授学科長
　　金沢美術工芸大学客員教授
　　公益社団法人日展理事
　　新日春会理事
　　日本芸術院会員

宙　Cosmos

出品リスト

	氏名	作品名	素材・技法	サイズ(タテ×ヨコ)
大賞	小谷　光	meets	新聞紙、日本画絵具	162×162
優秀賞	池上 真紀	残響	楮紙、胡粉、岩絵具、墨	162×162
奨励賞・京都府知事賞	大村 美玲	沙鴎	麻紙、岩絵具	97×162
奨励賞・京都市長賞	松岡 勇樹	はじまりもおわりもない	豚生皮、ナイロン糸、墨	162×162
奨励賞・京都商工会議所会頭賞	青野 圭花	水映ゆ	麻紙、岩絵具、水干絵具	162×130
	荒木 百花	掬いあげる	キャンバス、岩絵具、水干絵具、胡粉、色鉛筆	130×162
	岩井 晴香	夕刻の水辺	麻紙、水干絵具、岩絵具	130×162
	海野 厚敬	風の跡をなぞって	綿布、墨、木炭、顔料、アクリル、油彩、パステル	137×151
	大槻 拓矢	日に灼ける	麻紙、岩絵具、水干絵具、金泥、胡粉	97×162
	大西 佑奈	うつつ	麻紙、岩絵具、水干絵具	162×162
	奥田 有規	ほころぶ	高知麻紙、墨、胡粉、水干絵具、岩絵具	162×162
	開藤 菜々子	をちかた	麻紙、岩絵具、水干絵具、箔、天典帖紙	162×162
	梶浦 隼矢	小雨	雲肌麻紙、岩絵具、水干絵具、墨、金泥	130×162
	岸本 祥太	樹塊	土佐麻紙、岩絵具、水干絵具、墨	162×130
	権　美愛	美しき春尽、そして一層	木製パネルに麻紙、水干絵具、岩絵具、箔、樹脂	162×130
	高橋 翔平	夏が終わる	高知麻紙、膠、水干絵具、岩絵具	162×130
	竹内 茉利	続く	麻紙、岩絵具、水干絵具、箔	162×130
	竹歳 和真	拠所	和紙、岩絵具、水干絵具、墨	162×162
	田中 翔子	里－日のひかり－	麻紙、岩絵具、水干絵具、胡粉、箔	162×130
	辻脇 怜奈	白光	麻紙、岩絵具、水干絵具	130×162
	西田 鳩子	Private	麻紙、岩絵具、ピグメント、銀箔	162×112
	長谷川 悠太	洞窟のなかの心	キャンバス、岩絵具	130×162
	原田 有希	等身の詩	和紙、岩絵具、墨、箔	162×112
	福田 浩之	March of Branches and Ivy	麻紙、岩絵具、墨	130×162
	古谷 優加子	追憶の色	麻紙、岩絵具、水干絵具、金箔	130×162
	松田 朋子	水茎の涙	雲肌麻紙、墨、胡粉、アルミ箔、水干絵具、岩絵具	162×112
	村田 幸子	時を攫う	高知麻紙、岩絵具	130×162
	森　桃子	緑陰	麻紙、楮紙、顔料、染料	160×130
	森中　歩	大地の唄	綿布、水干絵具、岩絵具、膠	162×162
	矢野 瑞季	思い出し椿	麻紙、水干絵具、岩絵具、墨、膠	130×162
推薦委員				
	石股　昭	木の詩	麻紙、岩絵具	116×91
	雲丹亀 利彦	春	雲肌麻紙、岩絵具	116×90
	大沼 憲昭	登龍門	金箔、銀箔、銅箔、墨、岩絵具、胡粉	292×80
	川嶋　渉	粒であり波である	楮紙、墨	93×62
	西久松 吉雄	彼岸	石州楮紙、岩絵具	116×91
	村居 正之	宙	麻紙、岩絵具	117×117

選考に
よせて

拮抗した出品作、授賞を決める難しさ

太田垣 實

2023年展の選考審査の対象となった出品作は30点で、昨年より減った。このうち初出品作は13点で４割強。当初に比べて全体の作品数が少なくなり、大胆な試みや意欲的な実験作に取り組む作家を推薦段階で受け入れる幅が小さくなった影響か、手堅く安定的に仕上げた作品がそろった。一方で、その分出来栄えや完成度にそう大きな差はなく、受賞作を選ぶのに少なからず苦労した。

大賞、優秀賞、奨励賞に選ばれた５点の作品は選考委員の１回目の投票から高得票を集めた。受賞作が決定した後に事務局によって示された資料で分かったが、今回初出品で受賞したのは一人だけ。他はすべて２、３回以上の出品歴があり、結果的にキャリア的にも筆技の面でも力量をもった作家の作品が選ばれた。

受賞作の中では初出品で奨励賞・京都市長賞に選ばれた松岡勇樹の《はじまりもおわりもない》を面白く見た。豚生皮に墨流しや点描、たらしこみなどによる墨象が揺らぎ広がるような流動性をもった画面。豚皮に描くという意外な表現手法とともに、混沌（こんとん）としたイメージのエネルギーが未完の可能性を印象づけた。大賞の小谷光《meets》は淡い赤紫調のモノトーンの画面に深海の怪魚と少女の日常の生活の１コマとが交差する空想的ファンタジーを描いている。色調を抑えたことで空想物語に余韻の残る効果を生んだと言える。優秀賞の池上真紀《残響》や奨励賞・京都府知事賞に選ばれた大村美玲《沙鷗（さおう）》は目に見えない世界の韻律や、カモメの憩う海景の彼方の気配などを描出しようとした意欲作だが、いまひとつ意図が伝わってこないもどかしさが残る。奨励賞・京都商工会議所会頭賞の青野圭花《水映ゆ》は蓮や水草の浮かぶ水面を澄明な色彩感覚で描いてさわやかな詩情。受賞はならなかったが、岩井晴香《夕刻の水辺》の山水的な空気感に惹かれるものがあった。

（美術評論家）

「京都 日本画新展2023」選考を終えて

國賀由美子

「京都 日本画新展」も改まって第５回を迎え、今回は一つの区切りの回となった。30点の作品が出品され、これまでに最も少なかった昨年よりさらに３点少ない。会場に入ったとき一抹の寂しい感じがしたのはそのせいだろう。しかし、やはり昨年以上に、総じて技術力が向上したことを感じる。推薦委員の先生方のご尽力のたまものであろう。粒ぞろいというか、一定レベルを超えた作品群に目を見張る。

ただし、残念ながら今年も、これぞと大賞に推せる、心を動かすスペシャルな作品は現れなかった。皆さん綺麗にまとめ上げている、そんな感想をもった。

大賞の小谷光《meets》は、その中で冒険性を感じさせた。審査後に見た作者のコメントによると、観覧車で日常生活を営む少女が真っ暗な海底で深海魚に出会う、という奇想天外な設定。新聞紙を貼り合わせ作成した、でこぼこした支持体に描く。紫茶色のモノトーンによる画面もなかなか蠱惑（こわく）的だ。

池上真紀《残響》はまたしても優秀賞。選考委員は作者名を伏せられたまま、つまり誰の作かわからないまま選考するが、三度目の正直が成らなかった。楮紙を使用し、下辺の発色は美しかったが、残響は壮大さより儚さが感じられた。

奨励賞・京都市長賞の松岡勇樹《はじまりもおわりもない》は、日本画なのかどうなのか、よくわからない。しかし、作者はそんなことはもうどうでもいいのかもしれない。こちらも前述した作者のコメント中にある「自己が獲得する世界＝私の絵」との言明を、誰も否定することはできない。

選に漏れた中では、久々に出品の岩井晴香《夕刻の水辺》が清廉で、その感性を研ぎ澄ませながら、ますます技術を磨いてほしいと思った。

（大谷大学文学部教授）

５回にわたる「京都 日本画新展」の選考を終えて

畑　智子

2022年の晩秋、京都新聞社社屋において５回目の「京都 日本画新展」の選考を終えた。今回も、作品数が30点となったが、作品の質は一定水準を保っており、ご推薦された先生方のご指導の成果と思われる。

大賞を受賞した小谷光の《meets》は、まず伝統的ともいえる蘇芳（すおう）染めのような美しい色彩に惹かれた。描かれているのは現代少女の日常と海底を泳ぐ深海魚との出会い。日常の一瞬を切り取った現在と悠久の過去が出会ったような不思議な空間が、微妙な色合いによって表現されている。作者が男性であること、また2021年度の作品とはまったく傾向の異なることにも驚かされた。

奨励賞・京都府知事賞の大村美玲による《沙鷗（さおう）》。砂浜のカモメ、という意味で「海の京都」丹後の海辺をモチーフに選んでいるという。全体的に色のトーンが洗練され、気品の漂う作品に仕上がっている。砂塵（さじん）に覆われているのはカモメのいる浜辺と社なのか。また全面を覆う砂の表現はコンプレッサーによるものか。そうであれば現代の便利な機器を使うことで、やや均質的な表面となり少し残念な感じもある。

入賞には届かなかったが、個人的には松田朋子の《水茎の涙》、開藤菜々子の《をちかた》も優れた作品として心に残っている。

「京都 日本画新展」の今クールが始まった2019年からわずか５年の間にコロナウイルスが世界中に蔓延（まんえん）し、またロシアの侵攻によって戦車やミサイルが街を破壊するという20世紀的戦争が今なお続いている。世界が深刻な不安に包まれ、予測不可能な不穏なうねりが、私たちの身近な営みにも近づいている。このような時代を、これからの未来を作っていく若者たちはどう感じているのだろうか。経済的環境も悪くなれば必然的に文化的活動にも影響がでてしまうだろう。こうした厳しい社会状況の今だからこそ、周りの情報に流されず、自身の方向性をしっかりと定めて作品制作に望んでほしい。そしてそれを支える主催者側もぶれない信念をもって臨んでほしい。

（京都文化博物館特任学芸員）

あたらしい絵画世界への挑戦に期待をよせて

森口邦彦

５度目となった本展の受賞作品選考にあたり、毎回によせる期待感の強さのせいで、またも第一印象は失望を隠せなかった。それにしても全体に元気が無いのが気に掛かった。イマジネーションの欠落とでも言おうかどうしたことだろう、のびのびとしたところが感じられず、これを閉塞感と言われているものだとすれば、やはりパンデミックのせいなのかもしれない。推薦作品の数を減らさねばならなかった事情は十分に理解できるし、継続されていることには深い敬意を禁じ得ない。

すぐれて今日的な個人の世界をテーマに、生真面目な性格に逆らわないで素直に自分と対峙して出来たらしい作品《meets》が大賞となったことは大いなる救いであった。何のけれんみもなく自分の日常を一つの物語として封じ込めた点を大いに評価したい。吸収性の高い紙素材と粉っぽい細かい岩絵具の質感が、主題とうまくマッチし、岩盤を模したようなパネル作りにも真面目な姿勢を十分に汲みとることができた。

その他の受賞作について記し責を果たしたい。優秀賞《残響》は、あたらしい技法体験の興味深い結果を捉えていてとても新鮮だった。一方で、表現ということにこだわると少し求められているものと違うのではないかと思われるが、常に新しい試みへの挑戦は大切であると考える。ここに留まらないでさらなる前進を希望して。

奨励賞・京都府知事賞の《沙鷗（さおう）》は、材料、技法で日本画ならではの特質を存分に持った作品。光と陰の対比を魅力的に思ったが、陰の部分の描写技法の軽さが目に付いてしまって物足りなさを感じさせたのは残念だった。次の奨励賞・京都市長賞《はじまりもおわりもない》はタイトル通りの世界だが、墨の面白い表情を発見したときの興奮が伝わってきた。本展の趣旨と少しずれを感じたが、コンテストとなるとそのオリジナリティーの強さは評価せざるを得なかった。第三の奨励賞・京都商工会議所会頭賞《水映ゆ》は前作とは対照的と言える存在だが、確かな表現力と色彩のコントロールは見事。

本展が、推薦委員の先生方、参加者の諸君ひとり独りの努力の成果として、多くの鑑賞者を得、あたらしい絵画世界を切り開いていく契機とならんことを心から祈ります。

（友禅作家、重要無形文化財保持者）

「京都 日本画新展2023」の選考を終えて

山田　諭

「京都 日本画新展」も一区切りとなる第５回を迎えて、これまで以上に新たな発見があることを期待して会場に向かった。思い起こせば「期待外れ」だった第１回から始まって、「少し面白くなった」第２回を踏まえて、「明らかに違う」ことを感じさせた第３回に続いて、「新しい日本画の創造への可能性」の兆しが現れた第４回まで、選考を重ねるごとに着実に出品作品に変化が現れていることを実感していたからである。

ところが、会場に入ったとたんに期待は落胆に変わった。これまでは一渡り見晴らしただけで大賞に推したい作品が見つかったのであるが、今年は…。賞候補を選ぶ最初の投票（８点）すら難しく、頭を悩ませた。日本画の枠を超えるような挑戦を試みた作品をこれまで一貫して応援してきたが、今回の出品作品は新しい表現と主題の関係に齟齬（そご）を感じるとともに、完成度の点でもやや不満があった。おそらく最後となる審査講評において、こんな憎まれ口を叩かなければならないのはとても残念で寂しいことである。

この３年間、コロナ禍に苦しみながらも若い作家たちが頑張ってきたことは選考を通してひしひしと感じるとともにとても心強く思っていた。だが、やはり長引くコロナ禍が創作活動に与えた重圧は想像以上に厳しいものであったようである。このことは出品作家だけではなく、本展の主催者にとっても同様であることは言うまでもない。

しかし、「京都 日本画新展」の企画と継続的な開催によって、若い作家たちの意欲的な作品（総計283作家による561点）の創作と発表の機会を提供したことは誇るべき成果である。選考委員として参加した私にとっても、清水葉月《間戸》（2020優秀賞）、山本雄教《White noise》（2020奨励賞・京都市長賞）、石橋志郎《Tone》（2021大賞）、沈楠《松明・余煙》（2022優秀賞）、山部杏奈《麒麟の花》（2022奨励賞・京都市長賞）などの優れた作品に出会えたことは大きな喜びであった。

コロナ禍だけでなく、経済的な格差や社会的な差別による対立や分断、政治的な独裁や専制が激しくなりつつある世界において、まだまだ先の見えない状況ではあるが、ポスト・コロナの新たな時代を迎えるために、京都の新しい日本画の創造への道が途絶えることなく続いていくことを心から願っている。

（美術史家）

京都日本画新展 2023

発行日　2023年２月３日
発　行　京都新聞
制　作　ニューカラー写真印刷株式会社